

2022年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

■2022年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方を記述し、2023年度第1回学校関係者評価委員会に報告した。
 ■新規課題にはアンダーラインを引いて掲載した。

大項目	中項目	2022年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○授業や学校生活を通して、より一層学生の対話力が身につくような取り組みをしてほしい (2022年度総評) ○TPCは、業界が変化しても普遍的に必要な項目である。学生に備わっているかどうかを定期的に評価する仕組みを設け、PDCAを回しながら身につけるようにしてほしい。(2022年度総評)	新規	校長	■専門知識・技術以外の学生の対話力には、人との関わり合いの場が必要であり、アフターコロナにおける諸活動の再開により再びこれらの育成に取り組んでいく。 ■TPCは、学生たちが今後職業人として人生を歩んでいくまさにコアスキルであるため、今のところは担任が各種面談、就職活動に係る面接等を通じて把握している。今後、各種検査等を導入するかを含め学内で議論していく。
	(2)学び直しの教育プログラムの開発	○新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、卒業生、社会人、外国人を対象とする新規の教育事業が展開できなかった。今後の実施に期待したい	継続	校長	■9年ぶりに離職者訓練等の社会人対象教育プログラムの開発をめざした。1月より医療事務・調剤事務コースをスタートさせることができた。今後はこのプログラムを含め、ラインナップの拡充を目指している。
1 教育理念・目的・育成人材像	(2)育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程編成委員会、実習先医療機関や卒業生にご教示いただく情報とご意見を学科運営に反映させ、専門分野の人材育成を推進する。
			継続	医療事務科	■学校関係者評価委員会、デュアル実習先医療機関や卒業生にご教示いただく情報とご意見を学科運営に反映させ、専門分野の人材育成を推進する。
			継続	医療事務IT科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。
			継続	診療情報管理科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。
			継続	くすり・調剤事務科	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、薬店実習、校内企業説明会などの行事や兼任講師、専門分野で就業している卒業生などと情報を共有し、専門分野において求められる人材を育成する。
			継続	介護福祉科	■臨地実習を通じた職業実践教育に加え、第一線で活躍されている経験豊富な方々や卒業生等を兼任教員(講師)としてお迎えし、授業内容の刷新を図る。 ■介護現場の実情に適ったカリキュラム構成とするために、兼任教員や実習指導者のみなさまに協力を仰ぎ、カリキュラム修正の内容に関するアンケート調査を実施し、結果をカリキュラム修正に反映する。 ■区社協や地域包括支援センター等との連携を働きかけ、地域社会に入っていける力を養成する。
			継続	看護科	■第1回の教育課程編成委員会において、本年度の取り組みを示し、第2回では運営の結果と次年度の取り組みについて示している。また、年2回実習協議会においては実習施設からの新人の傾向について情報共有しながら基礎教育にも活かすようにしている。更に、実習指導者会では臨床における学生の傾向を聴き、東京都専門学校連絡協議会で他校の取り組みなども参考にしながら教育の在り方を検討し進めていく。
	(4)社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	○外国人の支援や社会人の学び直しについては、引き続き社会のニーズを的確にとらえ、先を見越して運営することが望まれる。	継続	校長	■政府でも、社会人向けの「リスキリング」が急務とされている。経営企画室で開発しているプログラムのさらなる拡充をめざす。 ■外国人支援については、現在多くの日本語教育機関や支援団体の連携をはかり、社会のニーズを汲み取っていく。
2 学校運営	1. 運営方針	○運営方針の周知の仕組みはしっかりとしている。常勤の教職員に対する浸透度の確認は工夫して進めている。兼任講師に向けた働きかけの工夫が引き続き求められる。	継続	校長	■学科運営方針については、学科長と校長面談の上、確認を取っている。しかしながらその設定と年度初めの兼任講師への説明の順序が逆になっていることから、今後この解消に向けて準備を進めていく。
3 教育活動	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程を編成	○現場で求められる人材像の変化に対応するカリキュラムを創意工夫するように引き続き努めてほしい。 ○必要な知識と技術を身につける前提に、本人の勉強に対する動機づけや気持ちの持続性	新規 ／ 継続	校長	■行政からの発信、各種専門誌やマスコミの情報だけでなく重要なのは現場からの声である。その声を、キャリアサポート、実習を通じていかに汲み取るかが重要である。この情報収集に力点を置く。

しているか	<p>があると思われるため、その仕組みの検討も引き続き行ってほしい。</p> <p>○すぐに使うことのできる知識や技術も大切であるが、社会に出て継続して学んでいく力や、折れない心も身につける教育に引き続き取り組んでほしい。</p> <p>○在学中に社会人としてのコミュニケーションスキルが身につくような授業の仕組みづくりに期待したい。(2022年度総評)</p>	新規 ／ 継続	医療秘書科	<p>■学校関係者評価委員会及び医療事務分野教育課程編成委員会におけるご意見を基に、学生を医療現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。</p> <p>■専門知識・技能の習得とともに、初年次教育におけるキャリア教育・社会人化教育を推進する。</p>
		新規 ／ 継続	医療事務科	<p>■学校関係者評価委員会におけるご意見を基に、学生を医療現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。</p> <p>■専門知識・技能の習得とともに、入学後早期よりキャリア教育・社会人化教育を推進する。</p>
		新規 ／ 継続	医療事務IT科	<p>■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会のご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。</p> <p>■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。</p>
		新規 ／ 継続	診療情報管理科	<p>■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会のご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。</p> <p>■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。</p>
		新規 ／ 継続	くすり・調剤事務科	<p>■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会における意見を基に、学生を現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。</p> <p>■授業内容と共に現場での経験談を交えて授業がどのように役立つか学生に伝えることや、授業1コマごとの目的を明確に伝えることで学習意欲を高める。</p>
		新規 ／ 継続	介護福祉科	<p>■2023年度後期に「生きがいと地域社会」という科目が開講される。レクリエーションの専門的な知識と技術を活用して、Wellbeingの実践を通じた生きがいの創造を目指す。</p> <p>■「TPC」「生涯学習」「満足解思考」「学びのコツ」に関する学習を行っていく。具体的には「解らないままにしない」「確かめる」ことを重点課題に設定し、これらの習慣化を目指して学習活動に組み込んでいく。</p>
		新規 ／ 継続	看護科	<p>■昨今の臨床現場においては、看護師の判断力の向上の必要性が示されている。本校の科目においても臨床判断能力の育成をめざし科目設定をした。また、臨地実習では看護師の実践を見た際は「何故そうしたのか」を考えられるような指導に取り組んでいる。現場の新人教育においてもそのような取り組みをしている様であるが、課題も多いなどの情報を得ており、引き続き現場と情報を共有しながら取り組んでいく。</p> <p>■コミュニケーション能力の育成は、新型コロナウイルス感染症による臨床現場での実習経験が少ない事で社会人としてのコミュニケーション能力は課題が多いと感じている。今後の経験を積みながら課題に気づき、教育に取り組んでいく。</p>
		継続	医療秘書科	<p>■人前で臆せずにな自己表現ができるよう、発表形式の授業やキャリアサポートプログラム、学校・学科行事等でスキルの向上を図る。</p>
		継続	医療事務科	<p>■人前で臆せずにな自己表現ができるよう、発表形式の授業やキャリアサポートプログラム、学校・学科行事等でスキルの向上を図る。</p>
		継続	医療事務IT科	<p>■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえるよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。</p>
継続	診療情報管理科	<p>■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえるよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。</p>		
継続	くすり・調剤事務科	<p>■授業内において個人やグループで発表をする機会を設けており、クラスメイトや教員からフィードバックを得ることにより内省や気づきの機会となっている。本年度も継続して実施する。</p>		
継続	医療秘書科	<p>○発表形式の授業は、自分の考えを人前で話すことの慣れが就職活動や仕事に役立つと言われている。引き続きの取り組みが望まれる。</p>		

	継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■「調べ学習」「考察学習」「創作活動」等を学習活動の中心に据え、それらの成果を伝えるように発表(表現)することを日常的に繰り返す。 ■2年生は上記に加え、2年間の学習成果として「ケーススタディ」発表会をやり切ることを目指す。
	継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■新型コロナウイルス感染症の制限も徐々に解除されている事から、発表の機会も増え育成の機会も増えていくと思われる。また、発表においては発表資料の作成と発表方法などプレゼンテーション力に課題があり引き続き発表準備の仕方の工夫を課題として取り組んでいく。
○高校の現場ではアクティブラーニングが進んでいる。2020年度からそれに慣れた生徒が卒業する。引き続きアクティブラーニングに注力していただきたい。	継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■授業を始め校内の教育活動において、学生が周囲との調和を図り、主体的に学び、考え、行動できる要素を取り入れるよう工夫していく。
	継続	医療事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■授業を始め校内の教育活動において、学生が周囲との調和を図り、主体的に学び、考え、行動できる要素を取り入れるよう工夫していく。
	継続	医療事務IT科	<ul style="list-style-type: none"> ■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。
	継続	診療情報管理科	<ul style="list-style-type: none"> ■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。
	継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■各授業の内容に合わせて調べ学習や作問の実施、ビデオ教材の使用、グループワーク、ペアワークなど座学だけでなく主体的に学ぶことや周囲と協働しながら学ぶことができる授業を実施している。今後も継続的に学習方法の検討をしていく。
	継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■学生の学習活動を中心に据えた授業設計を、兼任講師も含めて周知し、授業公開を活用してアクティブラーニングの質を高めていく。 ■学科会議において、学習の達成課題とその評価項目と基準、並びに重点課題を説明し、チームワークを重視した学生主体の学習活動(アクティブラーニング)の実践を目指す。
	継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■可能な授業においてはシミュレーターを使い、学生が自ら活動し学べるような授業に取り組んでいく。また、シミュレーターを使用しない場合もリアルな事例などを使い、状況を想像し考えながら学ぶ授業・演習を取り入れ取り組んでいく。
	○新型コロナウイルス感染症禍の中でも入り口から出口までクオリティを落とさず学校運営をしていること、また、以前より実績を上げていることを高く評価する。引き続き創意工夫することを期待したい。(2021年度総評) ○自己点検・自己評価の各評価項目、活動内容を確認したが、新型コロナウイルス感染症の影響をあまり感じさせないどころか、今まで以上の活動ができている。教育活動が十分に結果に結びついているため、引き続きの取り組みに期待したい。(2021年度総評)	継続	校長
継続		医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■対面授業とオンライン授業のそれぞれの良さを生かしたハイブリッド型の授業により、多様化する学生に適應できる授業スタイルを引き続き研究する。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごした経験をプラスに生かせるよう、学生のサポートに努める。
継続		医療事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■対面授業とオンライン授業のそれぞれの良さを生かしたハイブリッド型の授業により、多様化する学生に適應できる授業スタイルを引き続き研究する。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごした経験をプラスに生かせるよう、学生のサポートに努める。
継続		医療事務IT科	<ul style="list-style-type: none"> ■対面授業とオンライン、オンデマンド型の授業のそれぞれの良さを生かしたハイブリッド型の授業により、多様化する学生に適應できる授業スタイルを引き続き研究する。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごした経験を将来に生かせるよう、学生のサポートに努める。
継続		診療情報管理科	<ul style="list-style-type: none"> ■対面授業とオンライン、オンデマンド型の授業のそれぞれの良さを生かしたハイブリッド型の授業により、多様化する学生に適應できる授業スタイルを引き続き研究する。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごした経験を将来に生かせるよう、学生のサポートに努める。
継続		くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■クラウドを通じて問題の共有をおこない、自主的に学習できる環境を整備している。今後も学習支援ツールの作成に注力していく。 ■展示会や工場見学、企業説明会などのオンライン実施が増加している。本年度も状況や効果を考慮しながら参加方法を検討していく。

			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■感染症感染対応ガイドラインを踏まえ、対策の基本的な行為(手洗い・うがい・手指消毒)の実施が習慣化するように継続して学生に働きかける。 ■学生主体の活動である「体育祭」と「学園祭」の実施に向けて準備が進められている。弊学科は(年齢・国籍・キャリア等)多様な学生が在籍しているため、学生たちが協力し助け合ってやり切ることを目指し、則面的に支援を続ける。
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■2023年度は多くの実習施設の制限が解除となり、新型コロナウイルス感染症禍前の教育に取り組める。しかし、制限下で多くの時間学んできた学生は、実際の現場での展開のスピードが早く思考の整理の困難さなど課題も多く見えてきた。その課題の要因を見出しつつ取り組んでいく。
	(4)授業評価を実施しているか	○アンケート結果をより有効に活用するため、定期的な見直しにおいて、必要な改善を進めてほしい。	継続	点検委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■2023年度より質問項目の改定を行った。様子を見て、検討が必要であれば自己点検・自己評価委員会の議題に挙げる。
	5.教員・教員組織 (2)教員の資質向上への取組	○授業公開は、兼任講師の参加について、さらなる拡大を期待している。	継続	教務委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■前年度に引き続き、兼任講師が行う授業については基本的に参観できるように実施している。また兼任講師についても自由に参観できる旨の案内を行っている。教務委員会は、外部からの意見も積極的に取り入れ、授業の質向上につながるよう、積極的な案内、情報の伝達を行う。
		○新型コロナウイルス感染症禍の中で、オンラインと対面のハイブリッド型で授業を進めていくと思われるが、オンラインを使った授業をいかに工夫するかが大事なポイントである。その工夫を授業公開等で共有し、学校全体が一つになっていくことに期待したい。	継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■3年間で培ったオンライン教育のノウハウをいかに伝承していかかが課題である。全面的に対面に踏み切ったとはいえ、定期的にオンラインを使用した講義を行い、学生にもオンラインに慣れ親しむことの継続を工夫したい。
4 学修成果	2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■各学科、教員が最大限の努力をし、検定取得に向けて取り組んでいる。引き続き学校としてもこれを評価していく。
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科運営計画に示した卒業時検定合格率の達成に向け、一部科目については進度別クラス編成を継続する。 ■2年次後期の検定にも挑戦できる科目配置にしているため、検定上位級の受験者数を増やし、伸び残しのない指導を継続する。
			継続	医療事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科運営計画に示した卒業時検定合格率の達成に向け、デュアル実習開始までに検定が取得できるよう、学生の理解度に応じた指導計画を立てる。
			継続	医療事務IT科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。ITパスポートの取得を目指し入学時より段階的に知識を増やしてゆく。
			継続	診療情報管理科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。医療情報技師能力検定の取得を目指し、卒業後も勉強を続けてゆけるようにサポート体制を整える。
			継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■多くの学生が学科が目標としている資格試験やさらに上位級に挑戦するように動機づけをおこなう。 ■学生が自身の成長や苦手な箇所を認識できるように問題演習の点数を継続的に計測し、その結果に基づいたアドバイスを実施する。 ■業界関係者から意見を頂戴し、学習意欲が高まるようカリキュラムを見直す。
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■国家試験100%合格をめざす。その他、任意の資格についても、学生自身が将来を見据えて積極的に挑戦できるように支援する。

			継続	看護科	<p>■2022年度の看護師国家試験の合格率は、全国の合格率を下回る結果となった。現状では学生は本格的な試験対策の取り組みは11月の実習終了後であり取り組み開始が遅い傾向にある。現状を踏まえ、実習中や自宅でも自主的に取り組めるような教材を導入し合格への一助として取り組んでいく。模擬試験結果において成績がふるわない学生においては個別の学習支援を継続し取り組んでいく。また、低学年から学習方法の支援として新たに「学習支援担当」も教員を置き取りんでいく。</p>
	3. 卒業生の社会的評価	<p>○卒業生は、就職先において高く評価され、多くの信頼を得ているが、職業実践教育の評価の観点からも、就業動向の定期的な把握が必要であり、訪問、面談をはじめ、Gメール等による調査も進めて、引き続き状況把握に努めてほしい。</p>	継続	CSC	<p>■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っていく。 ■Gメールを活用したより効率的な調査方法の検討を進める。</p>
5 学生支援	1. 就職等進路	<p>○新型コロナウイルス感染症による社会状況の変化により、企業等ではウェブ面接の導入が進み、メリットも感じている。対面の面接とは伝え方や感じ方が異なるため、授業等において指導を取り入れてほしい。</p>	継続	CSC	<p>■ウェブ面接については、授業では注意点や実施にあたってのポイント、また実際にウェブ面接の体験を通して指導していく他、個別にも希望者に対し実際にウェブの模擬面接を行い指導していく。</p>
	2. 中途退学への対応	<p>○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。 ○入学後の手厚いサポート等、退学防止の取り組みに努めてほしい。(2022年度総評)</p>	新規 ／ 継続	校長	<p>■オンライン授業の導入により、退学率に減少傾向が見られたが、対面授業に復したことにより再び上昇に転じた。ただしメンタル面を理由とする退学に増加傾向が見られるため、カウンセラー、保健室と協議し、これらのへの対応について全学的な学びを実施していく。</p>
			新規 ／ 継続	学生委員会	<p>■クラス担任、教員、保健室、カウンセラー等、これまで培ってきた協力体制を一層強化し、退学防止に取り組んでいく。 ■サークル活動を活性化させたり、学校行事(体育祭や学園祭)に積極的に関わらせたりして、学生の居場所づくりを行う。</p>
6. 卒業生・社会人	<p>○卒業生支援講座については、卒業生のニーズを把握し、内容の充実・強化に努めてほしい。</p>	継続	校長	<p>■次年度は医療・介護の診療報酬の全面改定もあり、また医療的ケアの必要性も高まっていることから、校友会と協議し、必要な卒業生支援を行っていく。</p>	
			継続	CSC	<p>■卒業生支援講座の企画についても卒業生と接する機会を通じニーズの把握に努めることにより貢献していきたい。</p>
		<p>○Gメール等を活用した、(卒業生の状況が把握できるような)ネットワーク作りを進めてほしい。また、ネットワーク作りだけでなく、卒業生に対するフォローの強化も進めてほしい。</p>	継続	校友会事務局	<p>引き続き卒業生支援講座開催時に参加者へのアンケートを実施するほか、卒業生へのヒアリングからニーズを探り、企画材料とする。</p>
			継続	CSC	<p>■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。2023年度は、より積極的に既卒者へのアプローチを行っていききたい。</p>
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	<p>○高校における専門学校理解や認識が必ずしも進んでいない。学科ごとに、仕事内容、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価などの情報提供をもっと工夫してほしい。</p>	継続	広報室	<p>■首都圏の重点校を中心に高校訪問を行い、本校の特徴を理解してもらったうえで信頼関係の構築をはかっている。また、昨年度の募集活動を検証しつつ募集活動計画を作成するなかで、アピールすべき情報を精査し本校の強みである就職の強さと業界とのつながりの厚さを訴求していくよう心掛ける。</p>
		<p>○新型コロナウイルス感染症禍前に比べるとオンライン授業のスキルが向上している。募集活動においても強みになると思われる。上手くアピールに繋げてほしい。(2021年度総評)</p>	継続	広報室	<p>■本校のオンライン授業の質の高さや、きめ細かいサポートをアピールする。</p>
9 法令等の遵守	2. 個人情報保護	<p>○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。</p>	継続	事務局長	<p>■これまでと同様に、オリエンテーションやポータルサイト、掲示を通して注意喚起を継続していく。</p>
			継続	学生委員会	<p>■個人情報の取扱いについて本校のポータルサイトに掲載するだけでなく、年間を通して随時注意喚起をする。</p>

10 社会貢献・地域貢献	2. ボランティア活動	○ボランティア活動は人材育成の視点から有意義なものであるため、さらに仕掛けを工夫して奨励してほしい。	継続	学生委員会	■アフターコロナとなり、各所でのボランティア活動が戻りつつあると思われるため、多くの情報を収集して案内し、ボランティア活動をすることで学生時代に貴重な社会経験を積めることを理解させて、ボランティア活動の参加者を増やす。
		○学校で単位認定されることもしっかり告知して活動を支援してほしい。	新規	校長	■新型コロナウイルス感染症禍で肉体的・精神的に活動意欲が低減してしまった。アフターコロナに向け、学生の積極性を涵養し、活動につなげていきたい。